

広島市英語教育改善プラン

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

【高等学校】

＜本市の現状及び目標＞

① 求められる英語力（CEFR B2レベル以上）を有する英語担当教員の割合

2020年度の英語教育実施状況調査は、新型コロナウイルス感染症により実施されなかったため、2019年度の調査結果で見たところ、求められる英語力を有する本市の英語担当教員の割合は74.1%となっており、全国平均値（72.0%）と比べて高いが、国の第2期教育振興基本計画で定めていた目標値（75%）には達していない状況である。したがって、まずは国の目標値（75%）達成し、最終的には、80%の英語担当教員が求められる英語力を有していることを目標としたい。

高等学校	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	目標値	70.0%	75.0%	80.0%	80.0%	80.0%
	達成値	63.0%	74.1%	-		

② 求められる英語力（CEFR A2レベル以上）を有している、あるいは有すると思われる生徒の割合

2019年度の調査結果で見たところ、求められる英語力を有している、あるいは有すると思われる本市の生徒の割合は61.2%となっており、全国平均値（43.6%）や、国の第3期教育振興基本計画で定めている目標値（50%以上）よりも高い状況である。新学習指導要領が年次進行で開始される前年度の2021年度には、70%の生徒が求められる英語力を有している（有すると思われる）ことを目標としたい。

高等学校	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	目標値	63.0%	65.0%	67.0%	70.0%	70.0%
	達成値	58.4%	61.2%	-		

③ 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定・公表及び達成状況の把握の状況

2019年度の調査結果で見たところ、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している割合は100%であるが、公表している割合は85.7%、その達成状況を把握している割合は57.1%となっている。生徒の学習改善や教師の指導改善を行うために、到達状況を把握することは重要であることから、新学習指導要領が年次進行で開始される2022年度には、100%を達成できることを目標としたい。

		年度	2018	2019	2020	2021	2022
高	設定	目標値	/	/	100%	100%	100%
		達成値	100%	100%	-		
	公表	目標値	/	/	100%	100%	100%
		達成値	87.5%	85.7%	-		
	把握	目標値	/	/	70.0%	85.0%	100%
		達成値	50.0%	57.1%	-		

④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

2019年度の調査結果で見たところ、生徒が英語を用いて言語活動をしている時間の1単位時間の授業に占める割合が50%程度を超える割合は86.1%となっている。新学習指導要領には、「言語活動を通して」コミュニケーションを図る資質能力を育成することを目指すこととされていることから、新学習指導要領が年次進行で開始される前年度の2021年度には、100%を達成できることを目標としたい。

- ・ コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲ、英語表現Ⅰ～Ⅱの授業において、生徒が英語を用いて言語活動をしている時間の1単位時間の授業に占める割合が50%程度を超える割合

高等学校	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	目標値			90.0%	100.0%	100%
	達成値	78.6%	86.1%	-		

⑤ パフォーマンステストの実施状況

2019年度の調査結果で見たところ、パフォーマンステストの実施状況は、科目により差がある。また、年度によっても差があり、年間を通して評価の計画・実施が十分でないことが考えられる。「話すこと」及び「書くこと」について適切に評価を行うために、パフォーマンステストを実施することは必須であることから、コミュニケーション英語（新課程では英語コミュニケーション）では2.0回を、英語表現（新課程では論理・表現）では、4.0回を目標とした。

- ・ 各授業におけるパフォーマンステストの年間回数の平均

			年度	2018	2019	2020	2021	2022
現行課程	スピーキングテスト	コミュ英Ⅰ	目標値			2.0回	2.0回	
			達成値	1.3回	1.6回	-		
		コミュ英Ⅱ	目標値			2.0回	2.0回	2.0回
			達成値	0.6回	0.9回	-		
		コミュ英Ⅲ	目標値			2.0回	2.0回	2.0回
			達成値	0.1回	0.5回	-		
	英語表現Ⅰ	目標値			4.0回	4.0回		
		達成値	1.3回	1.0回	-			
	英語表現Ⅱ	目標値			4.0回	4.0回	4.0回	
		達成値	0.5回	0.2回	-			
現行課程	ライティングテスト	コミュ英Ⅰ	目標値			2.0回	2.0回	
			達成値	1.7回	2.1回	-		
		コミュ英Ⅱ	目標値			2.0回	2.0回	2.0回
			達成値	1.0回	2.3回	-		
		コミュ英Ⅲ	目標値			2.0回	2.0回	2.0回
			達成値	0.1回	1.0回	-		
	英語表現Ⅰ	目標値			4.0回	4.0回		
		達成値	2.3回	3.0回	-			
	英語表現Ⅱ	目標値			4.0回	4.0回	4.0回	
		達成値	3.0回	4.7回	-			
新課程	スピーキングテスト	英コミュⅠ	目標値					2.0回
			達成値					
		論理・表現Ⅰ	目標値					4.0回
			達成値					
	ライティングテスト	英コミュⅠ	目標値					2.0回
			達成値					
		論理・表現Ⅰ	目標値					4.0回
			達成値					

⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況

2019年度の調査結果で見たところ、コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲ、英語表現Ⅰ～Ⅱの授業において、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合は、8割弱程度であるが、現行及び新学習指導要領では、「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」と示されていることから、新学習指導要領が年次進行で開始される前年度の2021年度には、100%を達成できることを目標としたい。

- ・ コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲ、英語表現Ⅰ～Ⅱの授業において、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

	年 度	2018	2019	2020	2021	2022
高等学校	目標値			90.0%	100.0%	100%
	達成値	77.9%	76.0%	-		

【中学校】

＜本市の現状及び目標＞

① 求められる英語力（CEFR B2レベル以上）を有する英語担当教員の割合

2020年度英語教育実施状況調査は、新型コロナウイルス感染症により実施されなかったため、2019年度の調査結果で見たところ、求められる英語力を有する本市の英語担当教員の割合は57.7%となっており、全国平均値（38.1%）と比べて高いが、国の第2期教育振興基本計画で定めていた目標値（50%）には達していない状況である。したがって、まずは国の目標値（50%）達成し、最終的には、60%の英語担当教員が求められる英語力を有していることを目標としたい。

	年 度	2018	2019	2020	2021	2022
中学校	目標値	55.0%	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%
	達成値	48.3%	57.7%	-		

② 求められる英語力（CEFR A1レベル以上）を有している、あるいは有すると思われる生徒の割合

2019年度の調査結果で見たところ、求められる英語力を有している、あるいは有すると思われる本市の生徒の割合は、48.0%となっており、全国平均値（44.0%）と比べて高い。しかし、第3期教育振興基本計画で定めている目標値（50%以上）より低い状況である。したがって、4技能5領域を有機的に結び付けた言語活動の充実に取り組み、60%の生徒が求められる英語力を有している（有すると思われる）こと目標としたい。

	年 度	2018	2019	2020	2021	2022
中学校	目標値	53.0%	55.0%	60.0%	60.0%	60.0%
	達成値	47.5%	48.0%	-		

③ 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定・公表及び達成状況の把握の状況

2019年度の調査結果で見たところ、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定し、達成状況を把握している学校の割合は100%であるが、学習到達目標を公表している学校は56.3%に留まっている。生徒の学習改善や教師の指導改善を行うために、「CAN-DOリスト」を公表し、活用することは重要であることから、新学習指導要領が全面実施となる2021年度には、100%を達成できることを目標としたい。

		年度	2018	2019	2020	2021	2022
中学校	設定	目標値			100.0%	100.0%	100.0%
		達成値	100%	100%	-		
	公表	目標値			70.0%	100.0%	100.0%
		達成値	42.2%	56.3%	-		
	把握	目標値			100.0%	100.0%	100.0%
		達成値	100.0%	100.0%	-		

④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

2019年度の調査結果で見たところ、授業の半分以上の時間、言語活動を行っている生徒の割合は89.2%となっており、全国平均値(79.2%)と比べて高い。新学習指導要領には、「言語活動を通して」コミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指すとされていることから、新学習指導要領が全面実施となる2021年度には、100%を達成できることを目標としたい。

- 英語の授業において、生徒が英語を用いて言語活動をしている時間の1単位時間の授業に占める割合が50%程度を超える割合

		年度	2018	2019	2020	2021	2022
中学校	目標値				95.0%	100.0%	100.0%
	達成値	91.3%	89.2%	-			

⑤ パフォーマンステストの実施状況

2019年度の調査結果で見たところ、スピーキング及びライティングのパフォーマンステストの両方を実施している学校の割合は78.6%であり、全国平均値(86.1%)と比べて低い。「話すこと」及び「書くこと」について適切に評価を行うために、パフォーマンステストを実施することは必須であることから、新学習指導要領が全面実施となる2021年度には、スピーキングテスト・ライティングテスト共に、4.0回実施することを目標としたい。

- 英語の授業におけるパフォーマンステストの年間回数の平均

		年度	2018	2019	2020	2021	2022
中学校	スピーキング テスト	目標値			3.0回	4.0回	4.0回
		達成値	2.4回	2.5回	-		
	ライティング テスト	目標値			3.0回	4.0回	4.0回
		達成値	2.8回	2.5回	-		

⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況

2019年度の調査結果で見たとおり、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合は87.1%となっており、全国平均値(76.9%)と比べて高い。新学習指導要領では、「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」と示されていることから、新学習指導要領が全面実施となる2021年度には、100%を達成できることを目標としたい。

- 英語の授業において、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

	年 度	2018	2019	2020	2021	2022
中学校	目標値			90.0%	100.0%	100.0%
	達成値	89.9	87.1%	-		

【小学校】

<本市の現状及び目標>

① 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定・公表及び達成状況の把握の状況

指導の効果を上げるために「CAN-DOリスト」の形式で学習到達目標を明確に設定する必要がある。そこで、研究校で作成した「CAN-DOリスト」を基にし、2022年度には、全ての項目について100%を達成できることを目標としたい。

		年 度	2020	2021	2022
小学校	設 定	目標値	50.0%	75.0%	100.0%
		達成値	-		
	公 表	目標値	50.0%	75.0%	100.0%
		達成値	-		
	把 握	目標値	50.0%	75.0%	100.0%
		達成値	-		

【小学校英語専科】

<本市の現状及び目標>

新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

2021年度は、新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合は、6.8%であった。今後、英語力を有する優秀な人材確保に向けての取組を進め、2025年度には、50%を達成できることを目標としたい。

		年 度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
小学校	割合(%)	目標値		18%	26%	34%	42%	50%
		達成値	9.6%	6.8%				
	人数(人)	目標値		23人	26人	34人	42人	50人
		達成値	16人	12人				

(2) (1) の目標を達成するための取組 (施策の全体像と具体的な計画)

【英語教育研究校の取組について】

[中等教育学校英語教育研究校] 広島中等教育学校

以下の3つの柱について、効率的・効果的な教育方法を研究・開発するとともに、その成果や好事例を全ての高等学校及び英語教育特別研究校に普及する。

- 英語授業の充実<ALTを活用した言語活動の充実>
 - ・ 英語の授業改善 (ALTの複数配置)
 - ・ インタビューテストによる成果検証
- 英語を使う場の創出<英語の授業以外で英語に触れる機会の創出>
 - ・ ER (英語多読) の充実
 - ・ イングリッシュキャンプの実施 (前期課程3年)
 - ・ 海外修学旅行の実施 (後期課程5年)
 - ・ 平和ガイドボランティアの実施
- 高大連携<外部機関との英語教育に関わる連携体制の構築>
 - ・ 広島市立大学: インターネットによるICT機器を活用した英語学習
 - ・ 留学生との文化交流

[英語教育特別研究校] 大塚中学校区

中等教育学校英語教育研究校での研究成果や好事例を検証するとともに、小中連携についての研究を行い、その成果を英語教育研究校や全ての中学校へ普及する。

- 英語授業の充実<ALTを活用した言語活動の充実>
 - ・ ALTの活用
 - ・ CAN-DOリストの活用
 - ・ インタビューテストによる成果検証
- 英語を使う場の創出<英語の授業以外で英語に触れる機会の創出>
 - ・ English Roomの整備・活用
 - ・ ALTの授業以外での活用
 - ・ 英語書籍の整備
- 小中連携<中学校区内で連携した英語教育を実施>
 - ・ 小中連携体制の構築
 - ・ 小学校への出前授業の実施
 - ・ 英語担当者への研修の実施

[英語教育研究校] 己斐中学校区、伴中学校区、仁保中学校区、矢野中学校区、早稲田中学校区、高陽中学校区、美鈴が丘中学校区

英語教育特別研究校での研究成果や好事例を検証し、その成果を全中学校へ普及する。

[英語教育研究校に係る研修]

- 中等教育学校英語教育研究校、英語教育特別研究校及び英語教育研究校における公開授業研究会
- 英語教育特別研究校及び英語教育研究校に係る研究推進リーダー合同研修会

【教員研修 (指導第一課・指導第二課・教育センター)】

- 小学校英語指導アシスタントに係る研修会
- 英語専科指導教員研修会
- 初任者研修
- 授業づくり研修 (探究的な学習を実現する授業づくり)

【高等学校について】

- 中等教育学校英語教育研究校、英語教育特別研究校及び英語教育研究校による公開授業研究会において、目的や場面、状況等を設定した言語活動の好事例や、生徒が放課後にALTと交流を持つ時間や授業外で英語に触れる場面の創出に関する実践例を紹介する。
- 学校訪問による授業観察及び指導助言を実施し、英語教育実施状況調査を基に各校の授業改善や「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用の充実を進める。
- ALTの効果的な活用につながるよう、ALT担当者会において、パフォーマンステスト等の充実、授業改善を促す。

【中学校について】

- 英語教育特別研究校、英語教育研究校での公開授業研究会において、例えば、アメリカにいるALTの家族のために自分たちが住む町のガイドブックを作成するといったような目的や場面、状況等を設定した言語活動の好事例や、生徒が放課後にALTと交流を持つ時間や授業外で英語に触れる場面の創出に関する実践例を紹介する。
- 新学習指導要領に基づいた「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」及び「新学習指導要領対応 中学校外国語教材 (Bridge)」の活用方法について説明するとともに、「話すこと (やり取り)」の領域において、互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動が行われるよう指導する。
- 各中学校の授業研究会、教科研修会等における指導・助言を通して、新学習指導要領の趣旨の説明や、各校の「CAN-DOリスト」の形式での学習到達目標の活用やパフォーマンステストの充実を促す。
- 広島市中学校教育研究会英語部会と連携し、英語部会主催の授業研究会にて、新学習指導要領の趣旨を反映した授業改善の視点について指導・助言を行う。

【小学校について】

- 英語専科指導教員を対象にした研修会を実施し (年 3 回)、以下の項目について周知を図る。
 - ・ 教科書について
 - ・ 指導計画作成について
 - ・ 学習到達目標 (CAN-DOリスト) 作成について
 - ・ 言語活動を充実させた授業づくりについて
 - ・ 評価について
- 英語専科指導校にアンケート調査を行い、指導の効果を検証する。
 - ・ 児童質問調査書 (年間 2 回)
 - ・ 英語専科指導教員対象の調査
 - ・ 管理職対象の調査
- 英語指導アシスタントに対する研修を実施 (年 2 回) する。
- 英語教育研究校の好事例の情報提供を行う。

【小学校英語専科について】

- 本市においては、平成 27 年から教員採用候補者選考試験一般選考について、一定の基準 (英検準 1 級等) に到達した志願者を対象に、第一次選考試験における筆記試験の得点に最大 20 点の加点を行い、英語力を有する優秀な人材確保に向けての取組を進めている。
- 今後とも、採用選考試験説明会等において、優遇制度を周知し、志願者の積極的な英語に係る資格取得促進に取り組むこととしている。

<令和3年度の研修予定>

【英語教育研究校に係る研修（指導第二課）】

①

研修名	中等教育学校英語教育研究校、英語教育特別研究校及び英語教育研究校における公開授業研究会（担当：指導第二課）
対象	小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の外国語科教員
目的	各英語教育研究校において公開研究会を実施し、聞くことや話すことを中心としたコミュニケーション能力の育成を目指した授業提案や好事例及び研究成果を普及する。
内容	<p>【公開授業研究会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観及び協議 <p>【実践発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「英語授業の充実」、「英語を使う場の創出」、「小中連携」等を柱とした取組の実践発表
研修の評価方法	・ アンケート

②

研修名	英語教育特別研究校及び英語教育研究校に係る研究推進リーダー合同研修会（担当：指導第二課）
対象	英語教育特別研究校及び英語教育研究校の外国語科教員
目的	英語教育特別研究校及び英語教育研究校の研究推進リーダー等に、研究推進に係る能力及び指導力の向上を図る研修を行うことで、研究校における効果的かつ円滑な研究推進の一助とする。
内容	<p>【公開授業研究会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観及び協議 <p>【実践交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ E R（英語多読） ・ M a g や e ラーニングを用いた学習活動 ・ A L T を活用した言語活動の取組
研修の評価方法	・ アンケート

【教員研修（指導第一課・指導第二課）】

③

研修名	小学校英語指導アシスタントに係る研修会（担当：指導第一課）
対象	小学校英語指導アシスタント
目的	小学校外国語科の趣旨・内容を理解し、円滑な導入を図るとともに、本市の英語教育に係る教員の指導力の向上を図る。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検定教科書「New Horizon Elementary 1・2」の説明 ・ 指導者用デジタルブックの使い方、教科書の特徴について ・ 外国語科の授業について ・ 指導計画作成について ・ 学習到達目標（CAN-DOリスト）作成について ・ 言語活動を充実させた授業づくりについて ・ 評価について
研修の評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート ・ 学習到達目標

④

研修名	英語専科指導教員研修会（担当：指導第一課）
対象	英語専科指導教員
目的	新学習指導要領における小学校外国語科及び外国語活動の導入に伴って、英語専科指導教員を対象に研修を行い、英語教育の充実に資する。
内容	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> 本市の課題について 言語活動に充実に向けた授業改善 改善の視点を意識した自己の実践の振り返り 評価について 【実践発表】 <ul style="list-style-type: none"> 言語活動の充実を図った授業改善について（広島市立小学校教諭） 【情報交換】
研修の評価方法	<ul style="list-style-type: none"> アンケート 授業改善計画書

【研修講座（教育センター）】

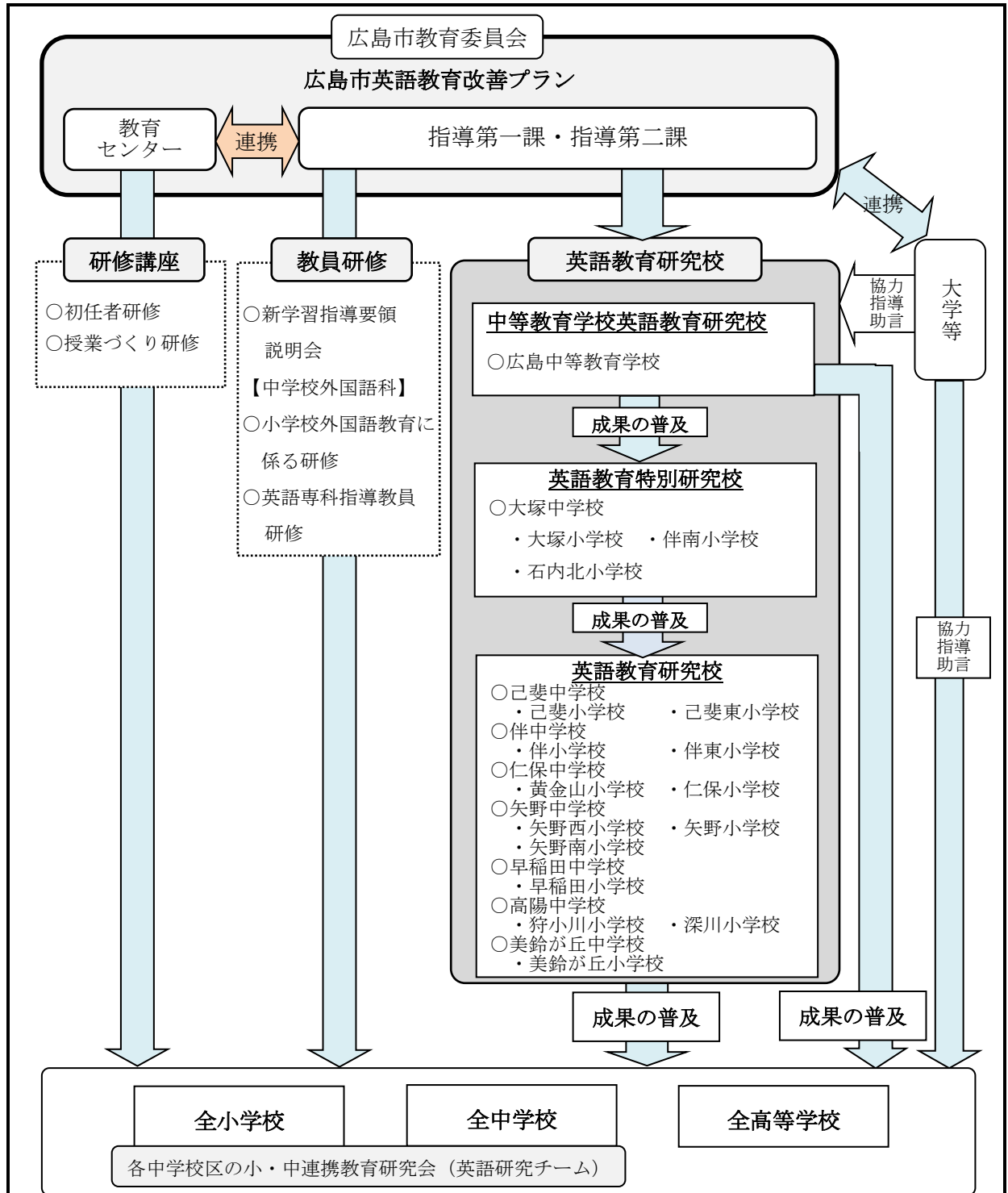
⑤

研修名	初任者研修 （担当：教育センター）
対象	令和3年度新規採用教諭
目的	教育実践に関する基本的事項について理解するとともに、教育公務員としての自覚をもち、必要な実践的指導力を高める。
内容	【事前研修】 <ul style="list-style-type: none"> 学習指導の基本（指導第一課職員、指導第二課職員） 【講義・演習】 <ul style="list-style-type: none"> 目指す教師像の明確化（教育センター職員） 学習指導の実際（指導第一課職員、指導第二課職員又は教育センター職員） 【授業研修】 <ul style="list-style-type: none"> 所属校における授業研究（指導第一課職員、指導第二課職員又は特別支援教育課職員） 【参観研修】 <ul style="list-style-type: none"> 相互参観研修（指導第一課職員、指導第二課職員又は特別支援教育課職員）
受講予定者数	305名
研修の評価方法	<ul style="list-style-type: none"> アンケート 研修レポート

⑥

研修名	授業づくり研修（探究的な学習を実現する授業づくり） （担当：教育センター）
対象	幼稚園・小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員
目的	授業づくりについて、最新の情報を学び、今後の自己の授業づくりに生かす視点を得る。
内容	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習を実現する授業づくり～質の高い課題解決力を育成するために～（外部講師）
受講予定者数	200名
研修の評価方法	<ul style="list-style-type: none"> アンケート

(3) (2) を実施する体制の概要



<広島市の英語教育の推進について>

「国際平和文化都市」を希求し、海外からの多くの人々が訪れる本市において、広島の歴史や文化、まちづくりの理念や平和への願いなど、広島の思いを英語により発信する子供たちの育成に取り組んでいる。こうしたことから、本市における外国語活動・外国語科の指導体制を見直し英語運用能力の育成に向けた授業を行うことができるよう、広島中等教育学校、大塚中学校等の英語研究校の成果や好事例を各英語教育研究校の公開授業研究会を通じて、全ての中・高等学校などに普及する。また、指導第一課、指導第二課及び教育センターによる研修を通じて、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりができるよう、教員の指導力の向上を図る。

